

## 社團法人臺南市獸醫師公會

### 2015 年學術研討會

- \*日本的寵物心臟及皮膚自然療法與臨床病例分享
- \*後天性瓣膜疾病(Acquired Valvular Disease)診斷與治療

講師 加藤明久醫師

講師 蔡志鴻醫師

中華民國一百零四年三月二十二日 (星期日)



社團法人臺南市獸醫師公會  
Tainan City Veterinarian Association



中華獸醫師聯盟協會



生展生物科技股份有限公司  
Syngen Always Know Your Needs

# 日本の代替医療における小動物の心疾患 及び皮膚疾患に対する治療法と症例報告

加藤 明久 獣医師

有限会社ペット医学機構

茨城県牛久市中央4丁目3-8

動物病院のD&C獣医科クリニック

ペットの総合施設 ツインギー・アンド・パラダイス

# はじめに

- ◇ 日本における代表的な代替医療
  - ・医療用漢方製剤を含む生薬や健康補助食品
  - ・経絡を利用した“鍼灸”
  - ・磁場を応用した磁気治療
  - ・その他(カイロプラスティック、マッサージ、アロマオイル、オゾン、パンフェノン、LPSに代表される各種のサプリメント)

# 中(獸)医的診断

# 中(獣)医的診断

## ◆ 基本的な処方までの流れ

「四診」



「弁証」



「診断」



「処方」

◆ 「四診」

- ① 望診：目で見る診察（観察）
- ② 問診：飼い主から情報を得る
- ③ 聞診：臭覚と聴覚で診察
- ④ 切診（触診）：直接触る

◇ 「弁証」

「四診」から得られる情報をもとに、疾患の

- ・性質(寒・熱)
- ・部位(五臓六腑・経絡)
- ・正気(気・血・津液)
- ・邪気(六淫)

◇ 「処方」

証に対する処方方針：治則



処方が決まる

## ◇ 「処方例」

証型	症状	治則	処方例
気虚証	息切れ、疲れ、脱力感、めまい、活動時に諸症状が悪化傾向、など	補気	四君子湯など
気逆証	咳・喘息、しゃっくり・ゲップ、悪心・嘔吐、頭痛、吐血など	降気降逆	蘇子降気湯 胃苓湯など
血虚証	顔色蒼白、唇色淡白、心悸、しびれ、月経の減少など	補血	四物湯など
血熱証	吐血、血尿、赤い発疹など	涼血解毒	犀角地黄湯など
津液不足	口渇、皮膚の乾燥・鱗屑、尿量減少、便秘、脈が細いなど	滋陰潤燥	六味地黄丸など

2014年8月中獣医学によるペットへの診療マニュアル(日本ペット中医学研究会)から引用

# 小動物における臨床上比較的多く見られる疾患

- ◇ 皮膚疾患 (25.7%)
- ◇ 消化器疾患 (17.3%)
- ◇ 目や耳の疾患 (30.1%)
- ◇ 循環器疾患 (5.3%)
- ◇ 腫瘍疾患 (7.0%)
- ◇ 他

2014年アニコム白書  
アニコム損保調べ

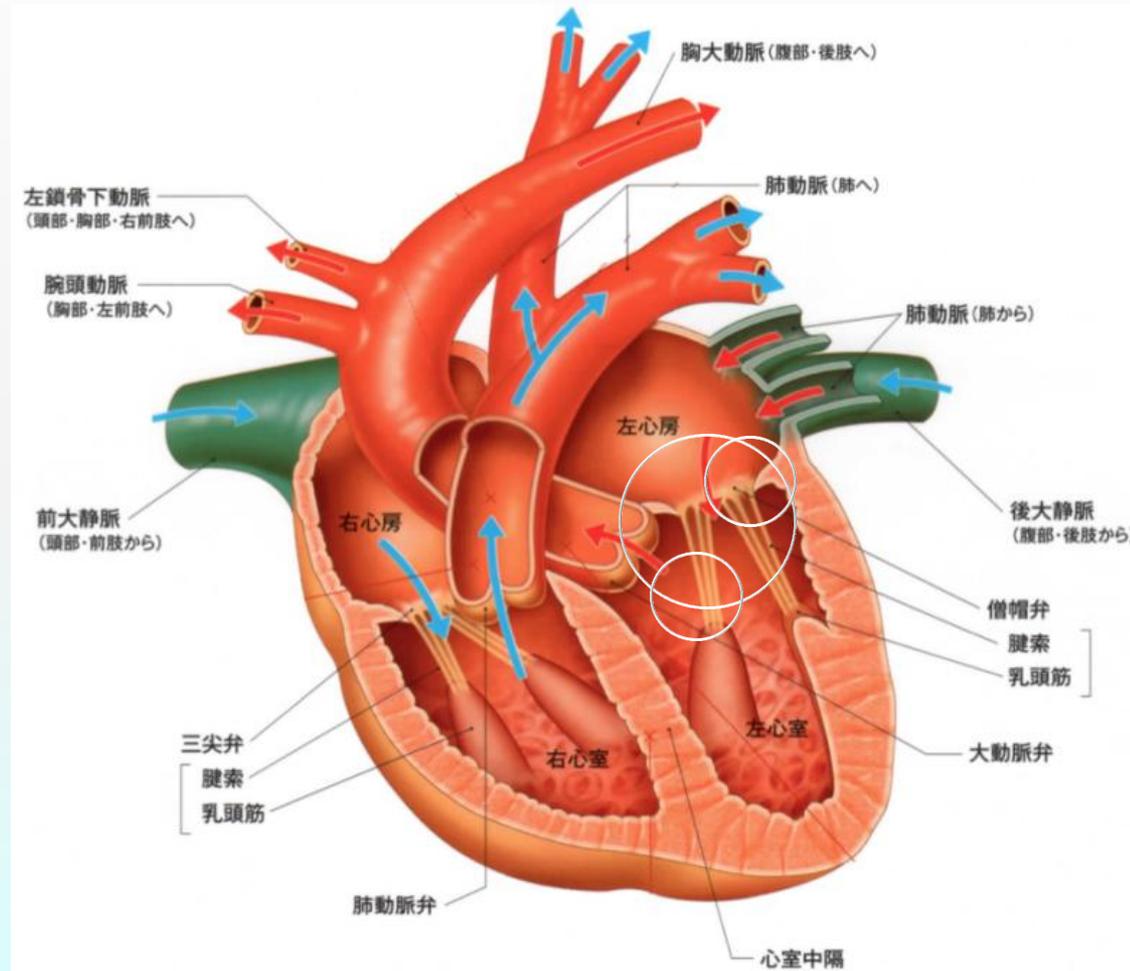
# ◆ 臨床の実際

犬の僧帽弁閉鎖不全

アトピーアレルギー性皮膚炎

# ◆ 犬僧帽弁閉鎖不全症

# ◆ 僧帽弁閉鎖不全症とは？



アリス動物病院HPから引用

## ◆ 僧帽弁閉鎖不全症とは？

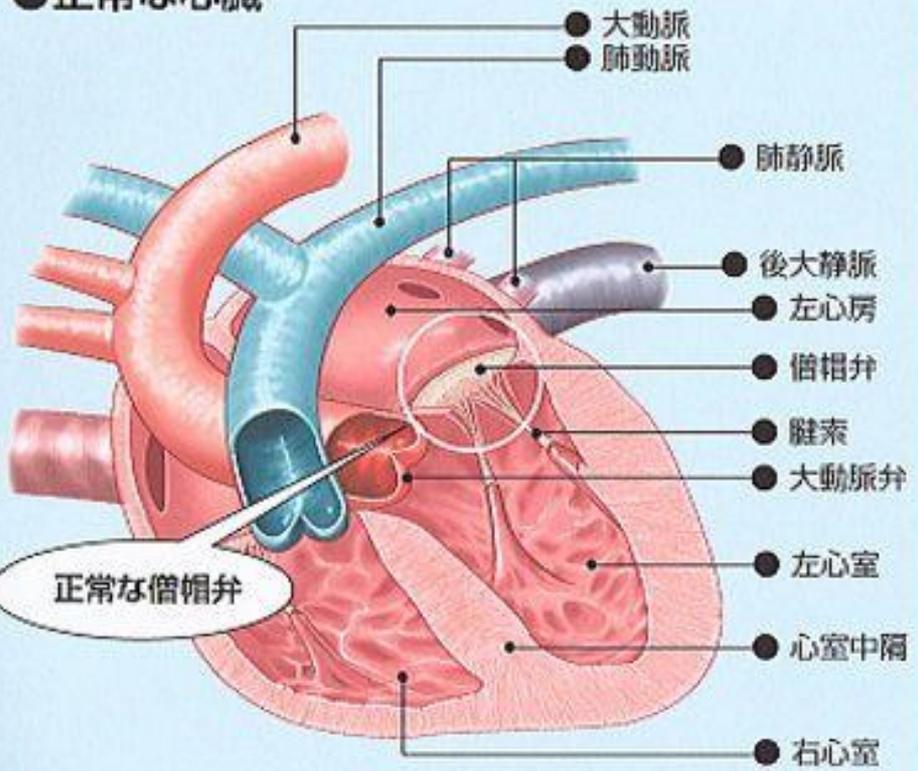
- 1) 僧帽弁逆流による左心房および左心室の拡大
- 2) 前方への血液拍出量の低下
- 3) 左心房圧上昇に基因する肺静脈圧上昇および肺うっ血
- 4) 肺高血圧症

## ◆ 僧帽弁閉鎖不全症とは？

僧帽弁閉鎖不全時の「咳」は物理的圧迫が原因

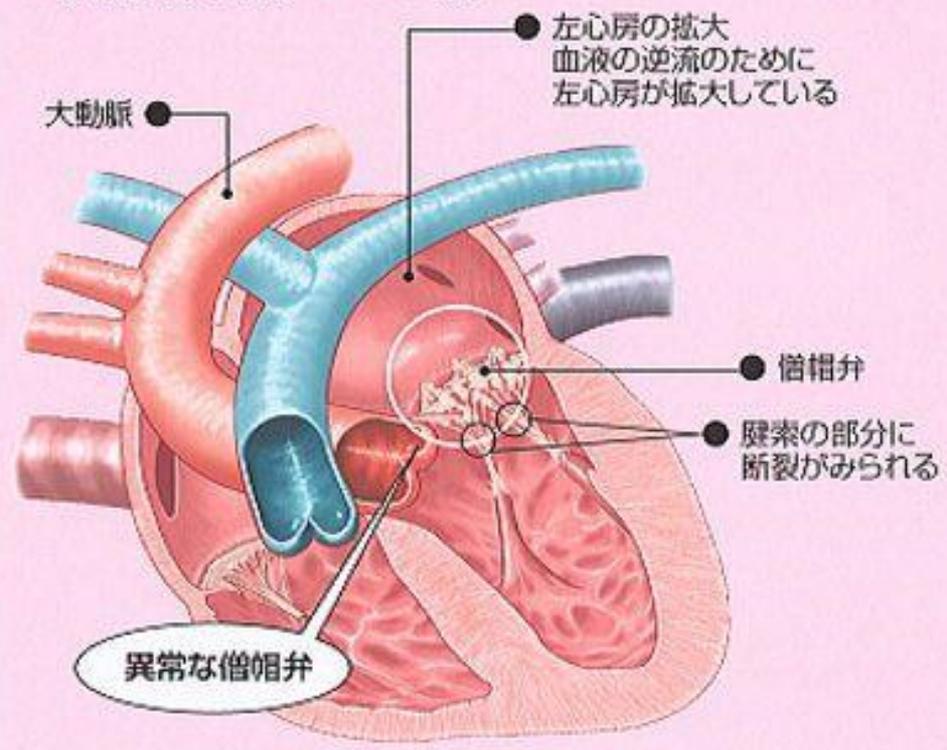
# 正常心臓

## ●正常な心臓

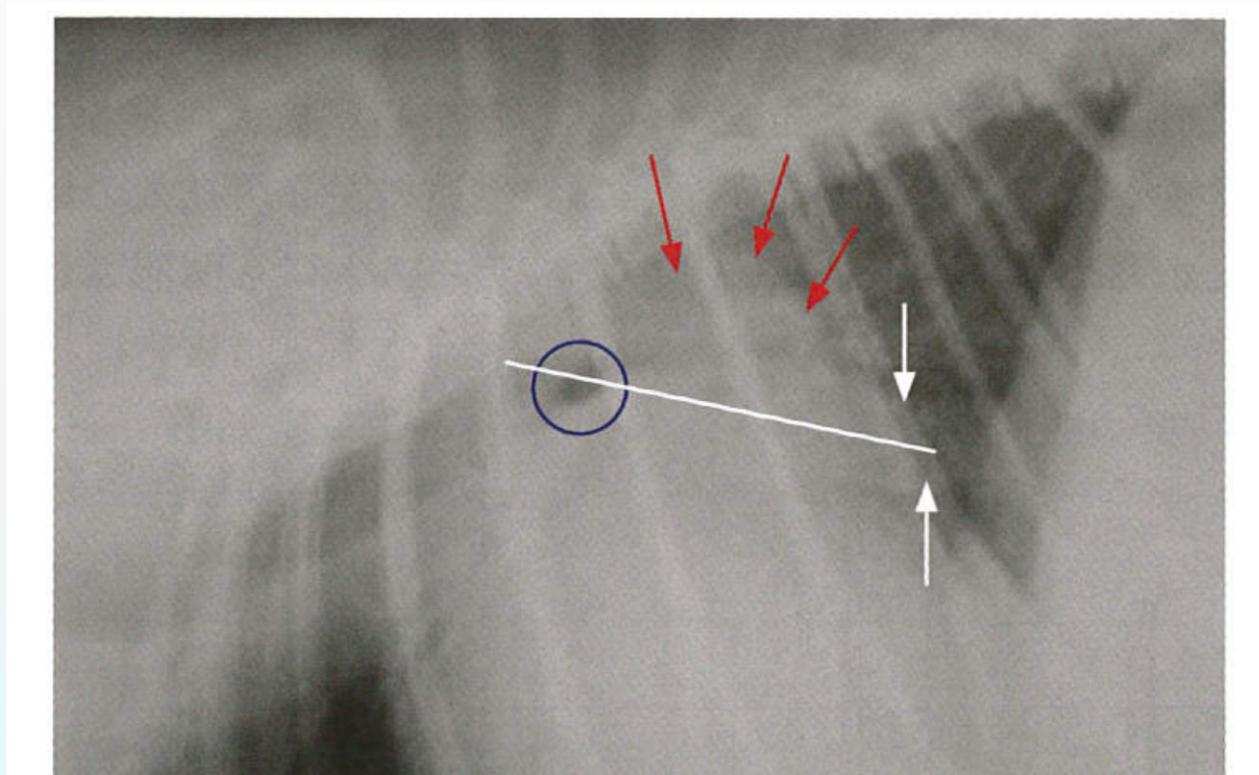


# 異常心臓(僧帽弁閉鎖不全)

## ●僧帽弁閉鎖不全の心臓



# 僧帽弁閉鎖不全時の「咳」は物理的圧迫が原因



イヌの僧帽弁閉鎖不全症 診断・管理の理論と実際 第2版から引用

## ◆ 僧帽弁閉鎖不全症における病態の悪化要因

- 1) 肥満
- 2) 全身性高血圧
- 3) 慢性腎臓病
- 4) 持続的な疼痛
- 5) 薬剤
- 6) 高ナトリウム食

## ◇ 僧帽弁閉鎖不全症における診断

- 1) 問診・聴診・全身症状
- 2) 血液、尿
- 3) 心電図、レントゲン・超音波エコー
- 4) 高度画像診断

## ◆ 僧帽弁閉鎖不全症における診断

1) 問診・聴診・全身症状

2) 血液、尿

3) 心電図、レントゲン・超音波エコー

4) 高度画像診断

## ◆ 僧帽弁閉鎖不全症における診断

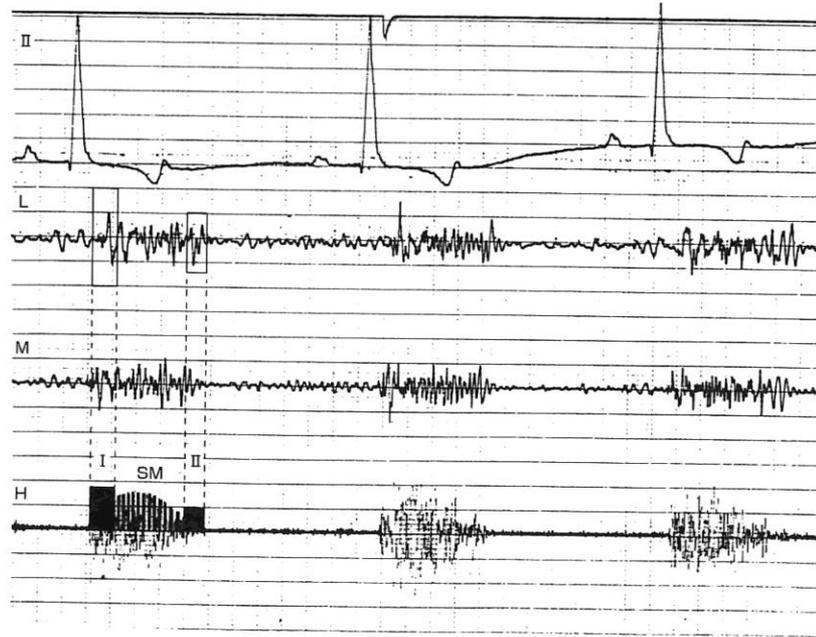


図-27. 僧帽弁閉鎖不全症の心音図 (心音 No.29)

僧帽弁閉鎖不全症の心雑音は、収縮期全体に生じるため、心音図上ではI音(図中I)とII音(II)の間に示される。このような心雑音を逆流性雑音とも言う。中・高音域(M, H)ではI, II音が不明瞭なため、低音域(L)で同定したI・II音を中・高音域の心音図に当てはめて心雑音を判定する。



犬の心音の聴診トレーニング テープによる犬の心臓の聴診から引用

## ◆ 僧帽弁閉鎖不全症における診断

- 1) 問診・聴診・全身症状
- 2) 血液、尿
- 3) 心電図、レントゲン・超音波エコー
- 4) 高度画像診断

## ◆ 僧帽弁閉鎖不全症における診断

- 1) 問診・聴診・全身症状
- 2) 血液、尿
- 3) 心電図、レントゲン・超音波エコー
- 4) 高度画像診断

## ◆ VHS (Vertebra Heart Scale)法

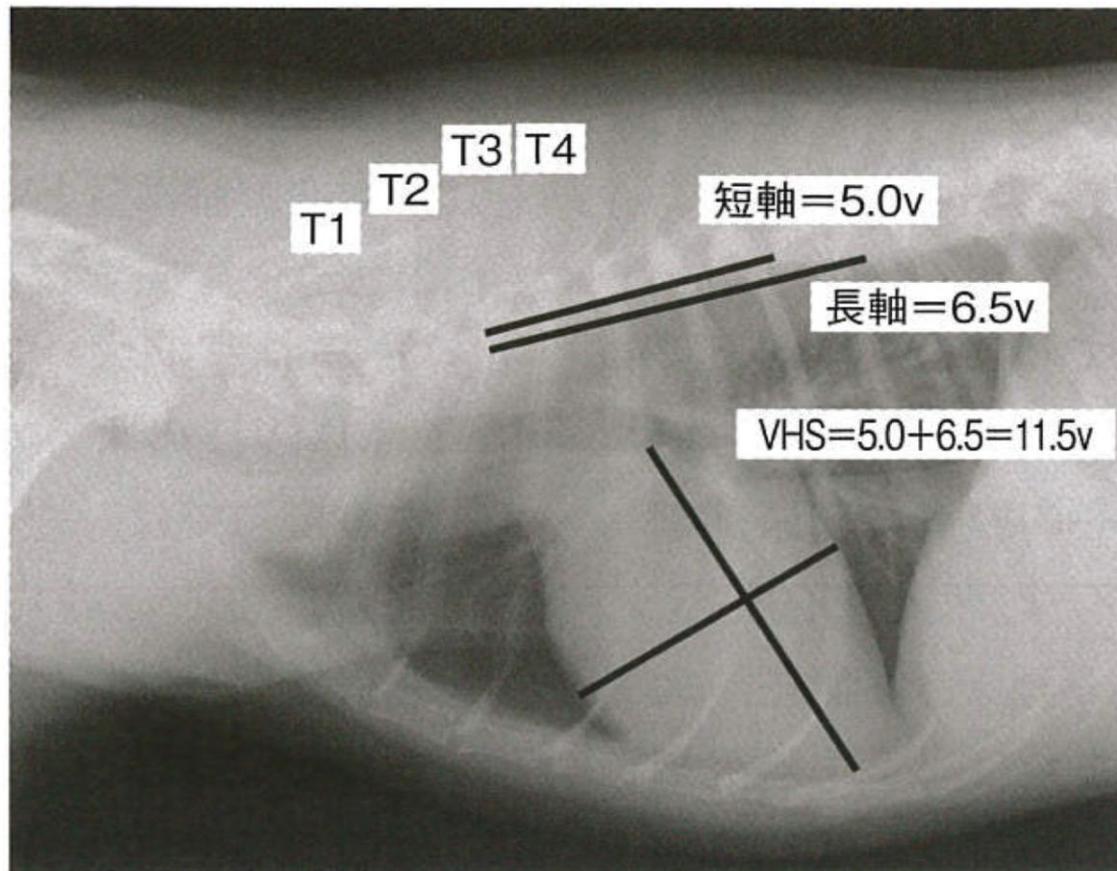
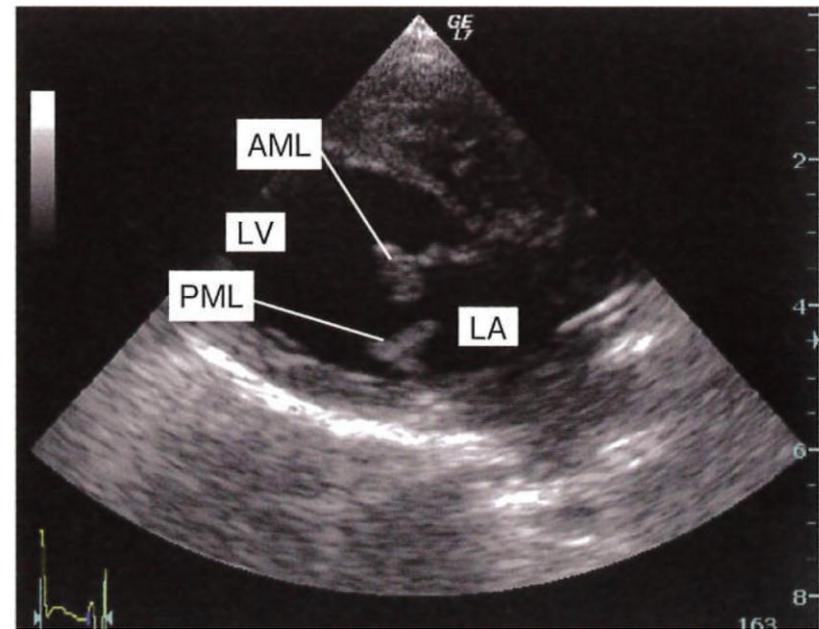
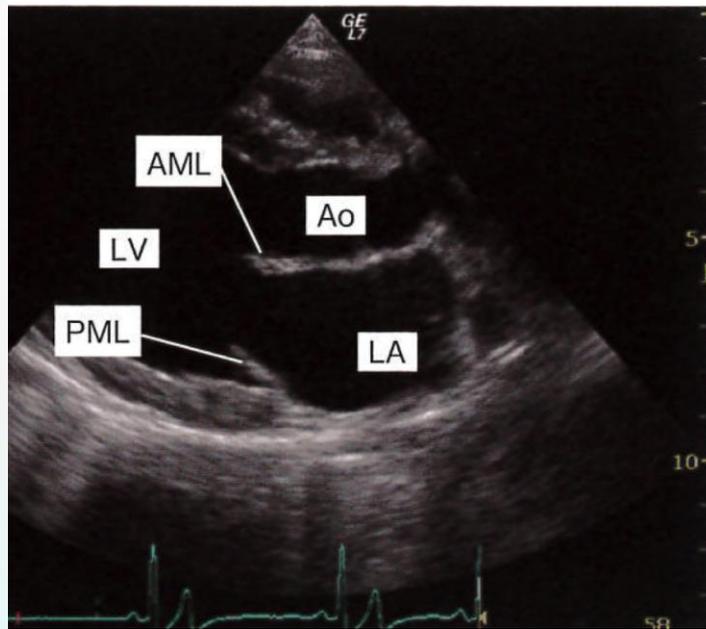


図 2-4 VHS (Vertebra Heart Scale) の測定法

## ◆ 僧帽弁閉鎖不全症における診断



イヌの僧帽弁閉鎖不全症 診断・管理の理論と実際 第2版から引用

## ◆ 僧帽弁閉鎖不全症における治療

効果的な予防・治療法は現在の所無く、QOLを保つ治療が主体

- 1) ACE阻害剤
- 2) 気管支拡張剤
- 3) ベトメディン、ジギタリス製剤
- 4) パンフェノン
- 5) 漢方薬
- 6) 他

## ◆ 僧帽弁閉鎖不全症における治療

薬剤	Ia	Ib	II	IIIa
ACE阻害剤	△	○	○	○
硝酸イソソルビド	-	-	○	○
ジゴキシン	-	-	△	△
利尿剤	×	×	×	○
β 遮断薬	-	-	△	×
ヒドララジン	-	-	-	△
ニトログリセリン	-	-	-	○
ピモベンダン	-	-	-	○
肺高血圧治療薬	-	-	-	△

イヌの僧帽弁閉鎖不全症 診断・管理の理論と実際 第2版から引用

ISACHC (International Small Animal Cardiac Health Council)

# ◆ 僧帽弁閉鎖不全症における治療

効果的な予防・治療法は現在の所無く、QOLを保つ治療が主体

証型	症状	治則	処方例
気虚証	息切れ、疲れ、脱力感、めまい、活動時に諸症状が悪化傾向、など	補気	四君子湯など
瘀血	チアノーゼ、舌質紫暗、瘀斑、脈渋	活血化瘀	血府逐瘀湯など

処方例:

水蛭(すいてつ)、三棱(さんりょう)、莪朮(がじゅつ)、山査子(さんざし)、西洋人参(せいようじんじん)の合剤

## ◆ 僧帽弁閉鎖不全症における治療

効果的な予防・治療法は現在の所無く、QOLを保つ治療が主体

演者らの方法

- (1) 症状らしいものはないが、聴診で心雑音を確認できる場合  
初診であれば、血液検査を実施し、感染性の可能性を鑑別  
肺野音がきれいであれば、ACE阻害剤＋パンフェノン
- (2) なんとなく元気がない、あるいは気になる場合  
血液検査と聴診などの一般検査を並行する  
聴診で心雑音を確認できればACE阻害剤＋パンフェノン  
心雑音を確認できなければ心電図⇒異常があればACE阻害剤＋パンフェノン  
飼い主が望むあるいは記録の必要があると感じればレントゲン撮影
- (3) 既に咳(吐くような喉に何か詰まっている)で受診の場合  
血液検査と聴診などの一般検査を並行する、  
同時に血液検査で呼吸器系の疾患と鑑別。異常を感じればレントゲン撮影  
循環器系を疑えばACE阻害剤＋パンフェノン、それ以外は必要な対症療法

# アトピー・アレルギー性皮膚炎

# アトピー・アレルギー性皮膚炎

アレルギー性皮膚炎は、  
アレルゲンとなる物質の  
存在があり、生体の反応  
により引き起こされる皮  
膚バリア機能異常

アトピー性皮膚  
炎は、多因性疾  
患であり  
その病態は免疫  
異常と皮膚バリア  
機能異常

# アトピー・アレルギー性皮膚炎

日本皮膚科学会提唱

増悪・寛解を繰り返すそう痒のある湿疹を主病変とする疾患

患者の多くはアトピー素因を持つ

「家族歴・既往歴(気管支喘息、アレルギー性鼻炎・結膜炎、アトピー性皮膚炎のいずれか、あるいは複数の疾患)または IgE抗体の産生し易い素因を持つ」

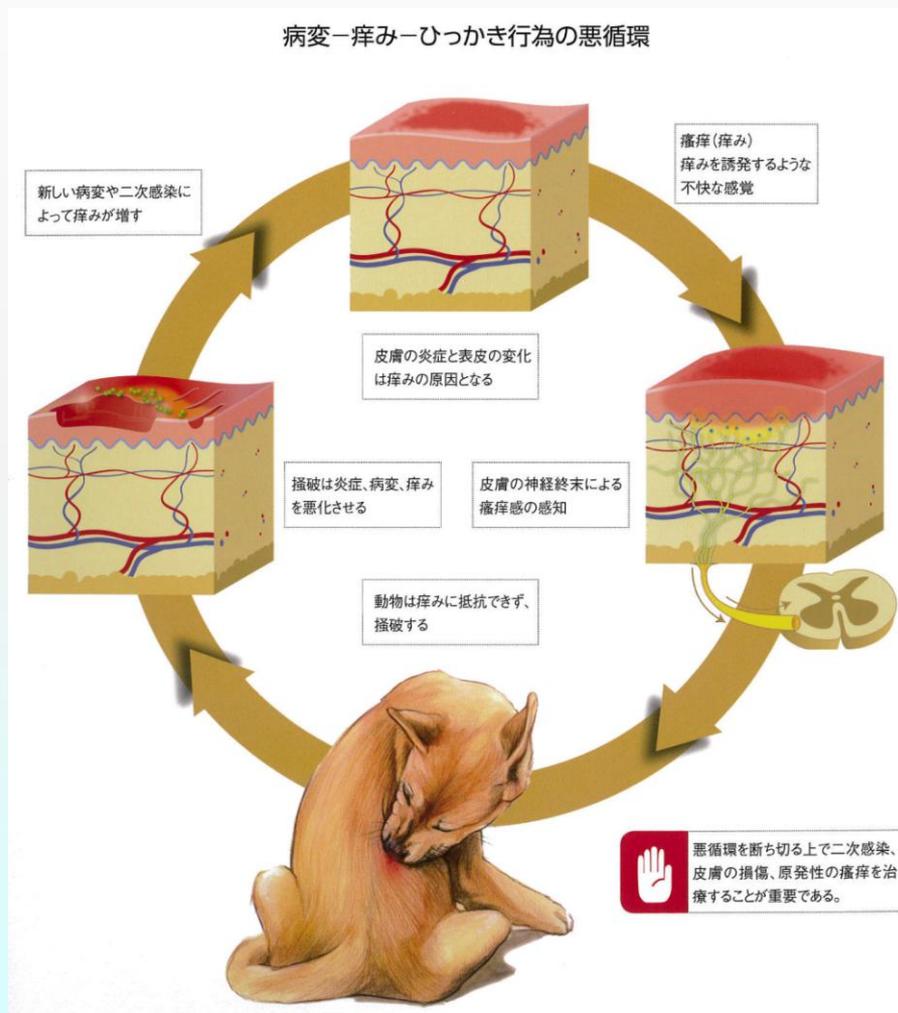
# アトピー・アレルギー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎(1～8項目中5項目以上を満たす)

1. 3歳以下での発症
2. 室内飼育
3. グルココルチコイドに反応する痒み症状
4. 無傷性の痒み症状
5. 前肢に症状
6. 耳介に症状
7. 耳縁は無症状
8. 背腰部は無症状

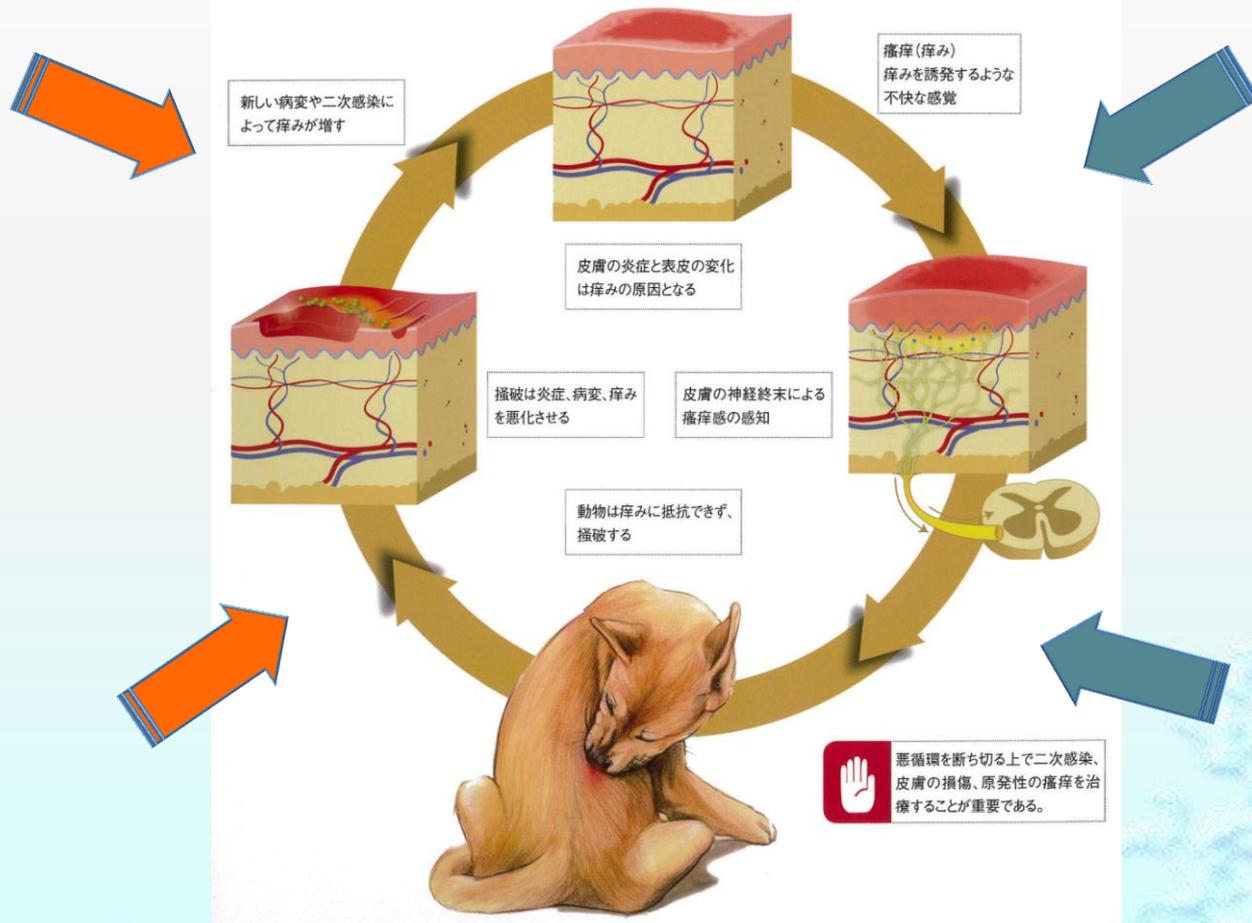
# アトピー・アレルギー性皮膚炎

病変-痒み-ひっかき行為の悪循環



# アトピー・アレルギー性皮膚炎

病変-痒み-ひっかき行為の悪循環



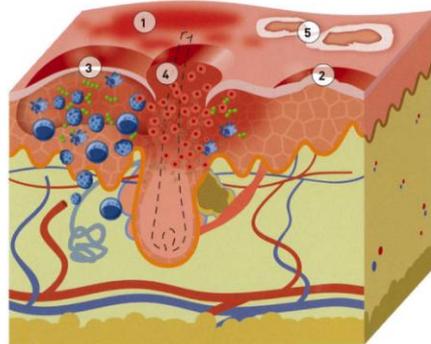
# アトピー・アレルギー性皮膚炎

## 表在性膿皮症

表皮や毛包上皮に発生する細菌感染症

- 表在性毛包炎
- 膿血疹
- 表在性拡大性膿皮症

1. 紅斑
2. 丘疹
3. 膿疱
4. 脱毛
5. 表皮小環

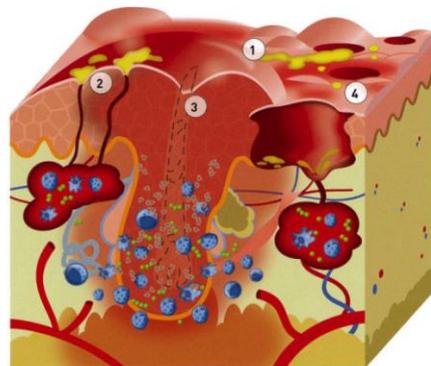


## 深在性膿皮症

真皮と皮下組織の細菌感染

- 毛包炎と癬
- ジャーマン・シェパードの癬腫症
- 蜂窩織炎と皮下脂肪織炎
- 膿瘍

1. 結節
2. 瘻管
3. 脱毛
4. びらんと潰瘍



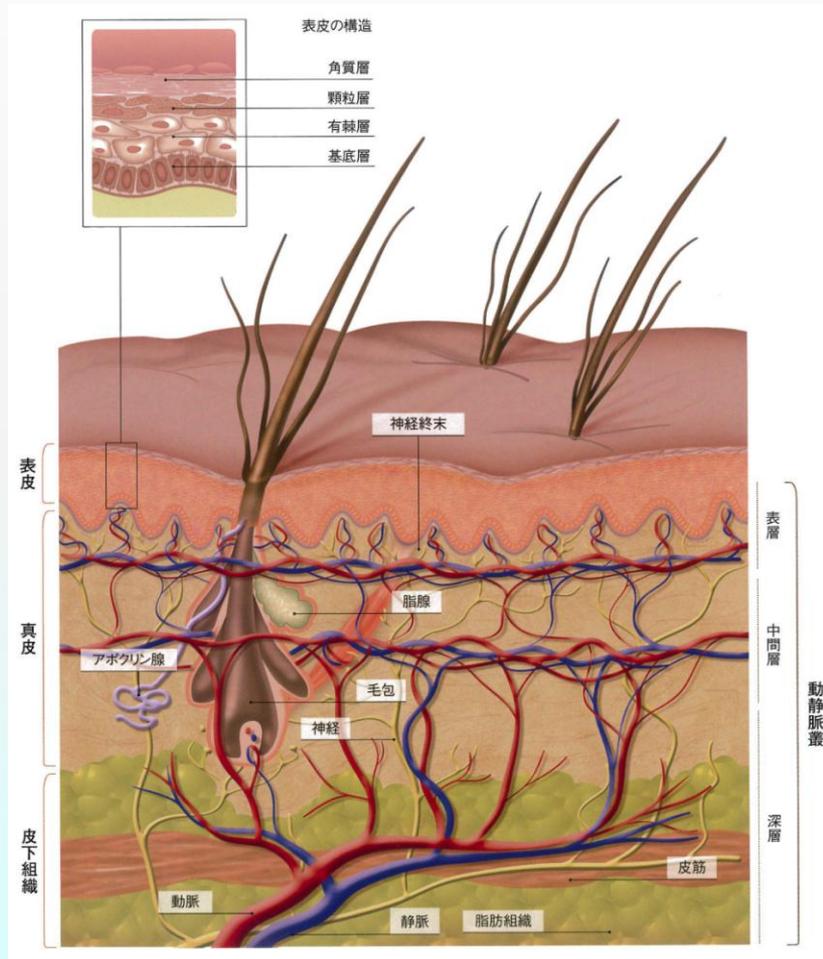
・原発性病変としての  
斑、丘疹、プラーク、膿疱

・原発性または続発性にお  
こる

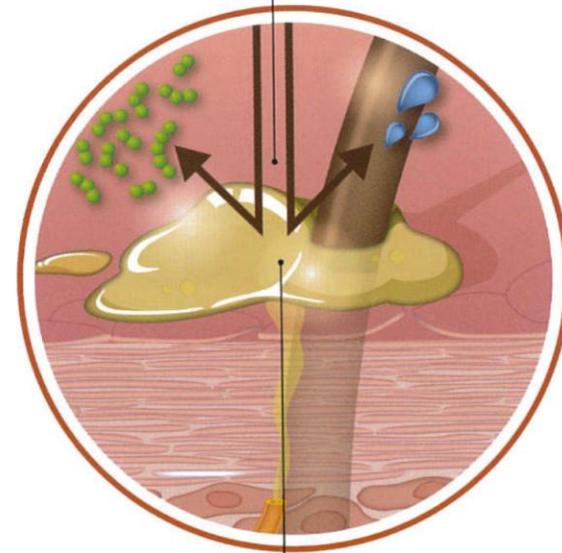
脱毛、鱗屑、びらん、面皰、  
色素異常、痂皮、潰瘍

・続発性病変としての  
表皮小環、擦過傷、苔癬化、  
癒痕

# 正常な皮膚の構造

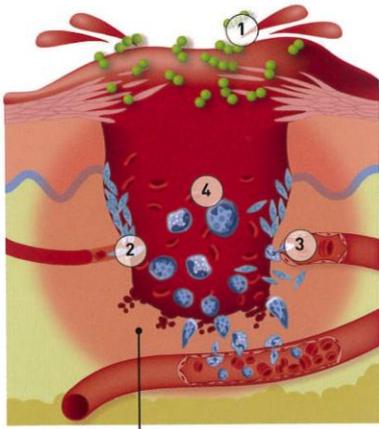


角質層は、成熟した無核の細胞である角質細胞で構成されており、角質構造を形成している。バリアは、体内からの水分および電解質の流出や、体外からの異物や病原体の侵入を防いでいる。



皮膚表面のフィルム様構造は、角化細胞や脂腺、汗腺からの分泌物の混合物である。フィルムは角質層を被覆し、皮膚に弾性を与え、水分の保持や抗細菌活性を有する。

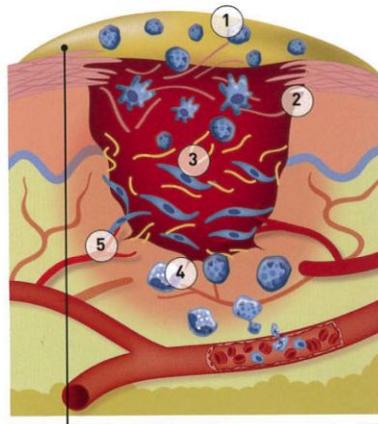
1 炎症期



1. 出血
2. 初期血管収縮 (5～10分)
3. 後に血管拡張および血管透過性の亢進
4. 活発な好中球の遊走

間質の浮腫

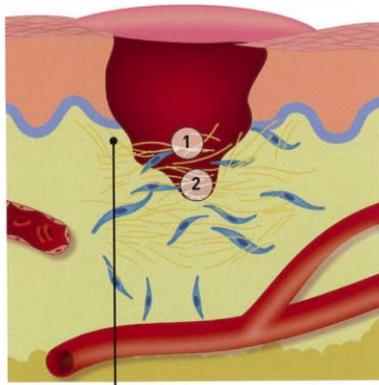
2 増殖期



1. 膿
2. フィブリン塊
3. コラーゲンを産生する線維芽細胞の遊走
4. 細胞の遊走と貪食
5. 内皮細胞の増殖および血管新生

肉芽組織の形成

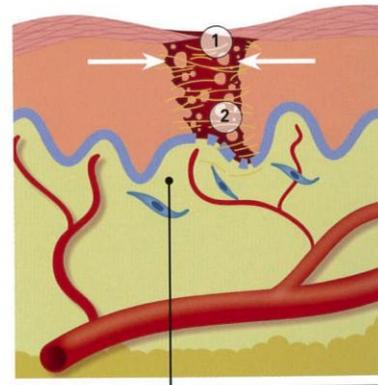
3 再構築期



1. コラーゲンの合成と沈着
2. 古いコラーゲンの吸収

再構築と創傷部の収縮

4 上皮化



1. 新生表皮
2. 肉芽組織上に上皮細胞が遊走

結合組織の形成

# 二期癒合による創傷治癒

# イヌのアトピー(過敏性疾患)における全身性変化～慢性経過例



慢性に経過した皮膚炎の  
ヨークシャー・テリア



急性食餌性アレルギー性皮膚炎を疑うミニチュア・ダックスフンド



激しいかゆみと色素沈着を伴う  
ウエスト・ハイランド・ホワイトテリア



原因不明の強いかゆみを伴い、再発を繰り返す  
化膿性皮膚疾患をもつダックス・フンド

処方の可能性：？

# Case#070926



**アトピーを疑う症例に、強いかゆみを伴い、2次的なニキビダニ症および膿皮症を伴う。**

処方の可能性：No.22, 86, 122, 125

## イヌのアトピー(過敏性疾患)における全身性変化



眼周囲の脱毛と二次的な細菌性皮膚炎



強いかゆみを伴う口周囲の皮膚炎



全身性に慢性的に経過した紅斑と色素沈着を伴った広範囲な脱毛が特徴的なシーズン

処方の可能性：No.6, 22, 59, 86, 122, 125

# アトピー・アレルギー性皮膚炎

## 治療

- ・薬物療法
- ・悪化因子(原因)の除去

# アトピー・アレルギー性皮膚炎

## 薬物

- 外用剤：ステロイド、タクロリムス、抗生剤、抗真菌剤
- 内用薬：抗生剤、ステロイド、
- 注射剤：インターフェロン、組換えDer f 2 遺伝子
- その他：漢方薬、シャンプー、各種サプリメント

# アトピー・アレルギー性皮膚炎

International Task Force on Canine Atopic Dermatitis のガイドライン

## 急性期:

発症因子の識別と排除

抗菌薬の使用を検討

非刺激性シャンプーによる洗浄

薬物療法による痒みや発疹の消退

(局所病変には外用グルココルチコイド、

また汎発や重症病変には経口グルココルチコイドによる短期治療)

# アトピー・アレルギー性皮膚炎

International Task Force on Canine Atopic Dermatitis のガイドライン

## 慢性期:

- 軽症例

期間限定的な対症療法

- 反復(長期)例

個別性を重視した多角的な対応

増悪因子の識別と排除、皮膚や被毛のケアに関する改善、  
薬物療法による痒みや発疹の消退、再発予防

# アトピー・アレルギー性皮膚炎

International Task Force on Canine Atopic Dermatitis のガイドライン

具体的には:

- 外用グルココルチコイド、タクロリムス
- 経口グルココルチコイド
- アレルゲン除去食
- シャンプー療法
- 経口シクロスポリン
- インターフェロン注射
- 経口必須脂肪酸、抗ヒスタミン剤、漢方薬

# アトピー・アレルギー性皮膚炎

## 演者らの方法:

- 保湿、血行改善などを目的としたシャンプー
- 補助的な抗生剤
- 皮膚被毛改善のための必須脂肪酸
- 消風散、薏苡仁、黄連解毒湯、治頭瘡一方などの漢方薬
- LPS、パンフェノン、水素
- 外用: モメタゾンフランカルボン酸
- 組換えDer f 2 遺伝子注

# 皮膚科適用の漢方処方

ツムラ医療用漢方製剤から引用

●皮膚病	No.20 防己黄耆湯
●分泌物が多く、かゆみの強い慢性の皮膚病（湿疹、蕁麻疹、水虫、あせも、皮膚掻痒症）	No.22 消風散
●皮膚炎	No.101 升麻葛根湯
●患部が発赤、腫脹してと疼痛をともなった化膿症	No.122 排膿散及湯
●化膿性皮膚疾患・急性皮膚疾患の初期	No.6 十味敗毒湯
●急性湿疹	No.6 十味敗毒湯
●慢性湿疹	No.86 当帰飲子
●湿疹	No.22 消風散 No.28 越婢加朮湯 No.59 治頭瘡一方 No.80 柴胡清肝湯 No.106 温経湯
●くさ	No.59 治頭瘡一方
●蕁麻疹	No.1 葛根湯 No.6 十味敗毒湯 No.8 大柴胡湯 No.22 消風散 No.117 茵陳五苓散 No.135 茵陳蒿湯
●皮膚掻痒症	No.15 黄連解毒湯 No.22 消風散 No.86 当帰飲子 No.87 六味丸 No.107 牛車腎気丸

●老人性掻痒症	No.30 真武湯
●癬（ヨウ）	No.20 防己黄耆湯
●癰（セツ）	No.20 防己黄耆湯 No.122 排膿散及湯
●瘍（ヨウ）	No.122 排膿散及湯
●面疔	No.122 排膿散及湯
●癰腫症	No.122 排膿散及湯
●にきび	No.50 荊芥連翹湯 No.58 清上防風湯 No.125 桂枝茯苓丸加薏苡仁
●しもやけ	No.38 当帰四逆加呉茱萸生姜湯 No.71 四物湯 No.106 温経湯
●あせも	No.22 消風散
●水虫	No.6 十味敗毒湯 No.22 消風散
●肝斑（しみ）	No.71 四物湯 No.125 桂枝茯苓丸加薏苡仁
●火傷	No.501 紫雲膏
●手足のあれ	No.125 桂枝茯苓丸加薏苡仁



## 処方選択のポイント

### 発疹の種類

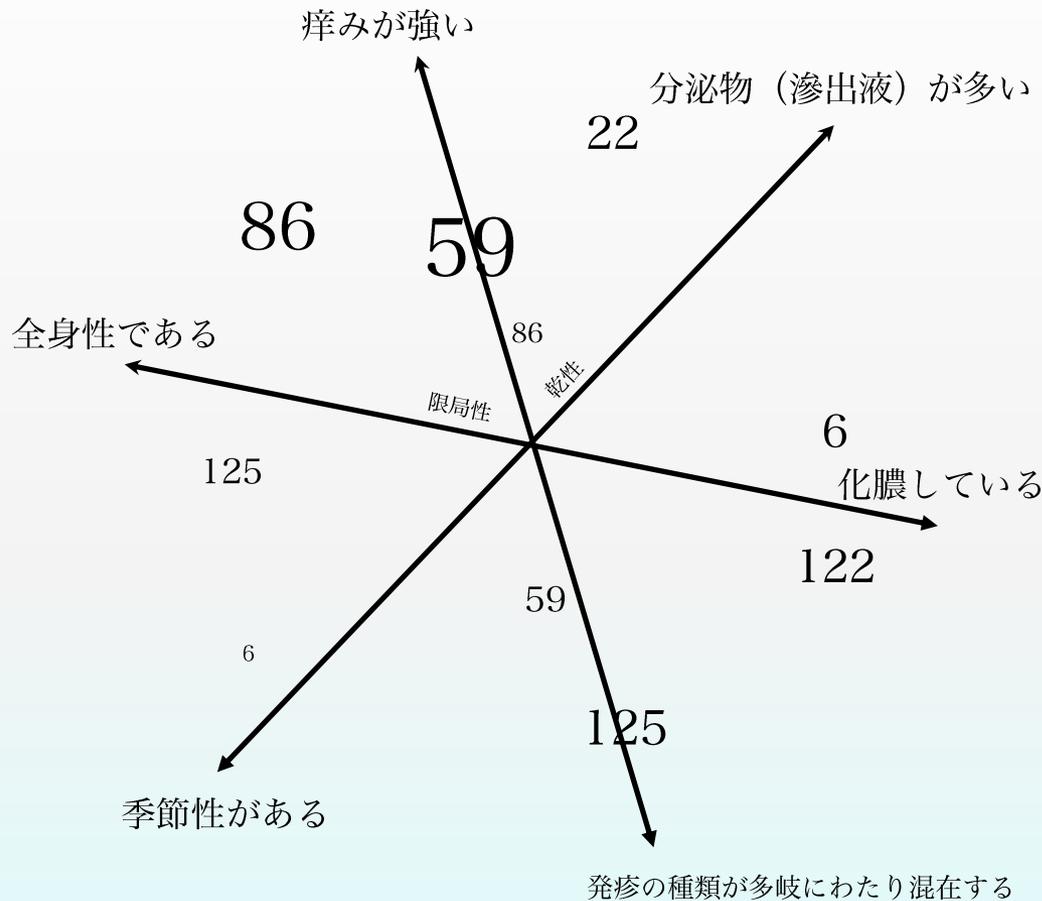
point

- 外部寄生虫の有無
- 化膿しているか否かまた繰り返すか
- 掻痒感 (VAS : 0/10~10/10)
- 全身性か限局性か
- 乾いているか湿っているか (滲出液が多いか少ないか)
- 発疹の種類が単純か複雑に混在するか
- 季節性があるか否か
- その他、処方を特定できる症状がある

検査

- skin scrapings,
- Wood's light examination,
- bacterial and fungal cultures,
- and cytology.
- hormonal assays,
- including the blood tests,
- biopsies,
- allergy testing
- and hypoallergenic diet trials.

※外部寄生虫の場合は、先ず駆虫を優先し漢方薬は併用しない。



No.6 十味敗毒湯

No.22 消風散

No.59 治頭瘡一方

No.86 当帰飲子

No.122 排膿散及湯

No.125 桂枝茯苓丸加薏苡仁

No.52 薏苡仁湯

表皮小環：No.59 治頭瘡一方

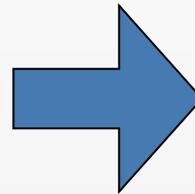
免疫増強などの目的に  
No.41 補中益気湯  
No.48 十全大補湯

いずれの処方も製剤量の80mg/kgを1日2回経口投与し、7日ごとに経過を見て評価する。

症例#05229



2006年生まれの柴犬  
♂未去勢  
指間発赤及び腫脹を主訴に受診  
・足せつ症もしくは指間湿疹



カバノアナタケ、メシマコブ、樟芝配合の自家製軟膏  
により好転

ご静聴ありがとうございました